

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19320078
 研究課題名（和文） コンピュータ利用日本語教育におけるコンテンツと学習の研究
 －効果と評価の観点から－
 研究課題名（英文） A Study on Improvement of Japanese Language Education
 Through Computer - from viewpoints of effect and evaluation -
 研究代表者
 柳澤 好昭（YANAGISAWA YOSHIKI）
 明海大学・外国語学部・教授
 研究者番号：80249911

研究成果の概要（和文）：

コンピュータのどのような機能を使って、誰が、どのようなこと／ものを、どのようにしたら、どうなったのか、ということ、電子化コンテンツを用いて実際に学習活動を行い探った。その結果と評価情報を含むフィードバック情報を得て、電子化コンテンツのあり方と作り方と使い方についての示唆を得た。これをもとに具体的な枠組みを作成し、用いた電子化コンテンツとともに公開した。

研究成果の概要（英文）：

Who use computer? How use computer? Why use computer? Which function of the computer is used? Who, when, where, and how evaluates the material? The feedback information was obtained. How to make and use the contents was obtained. The frameworks were made based on this. We showed the frameworks and all contents used, on the Internet, also, with the thesis and by oral.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
2008 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2009 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：コンピュータ利用日本語教育，学習効果，コンテンツ評価，学習用 Web サイト，言語学習観，言語教育観，高度情報化社会，新学力観

1. 研究開始当初の背景

コンピュータは、様々な影響を教育に与える。その影響は、これまで学習観や教授観に最大の影響を与えたと言われる複写機の比では

ない。これまでの教具に比べて、資源の共有と自作という新しい別の観点と、ネットワークとマルチメディアという様々な機能を持つからである。コンピュータの多様な機能を

十分に活用すると、画期的な教育効果、学習効果をもたらすと一般に言われている。そのため、教育界、特に言語教育、外国語学習、情報教育、理科教育、総合学習などの分野で、コンピュータが積極的に取り入れられている。しかし、コンピュータの機能を教育や学習で十分に活用するための根拠となる論議は、米国、韓国、シンガポール、EU 諸国に比して、日本の教育、特に日本語教育では十分には行われていない。教育や学習との関係に関する実践的研究や調査は、大学教員、研究室による小規模な事例を対象とした例しかない。大規模なものは、e-Japan 戦略対応事業として独立行政法人国立国語研究所日本語教育部門が 2002 年度から 4 年間取り組んだ「IT を活用した日本語学習環境の整備と人材育成」の成果ぐらいである。

2. 研究の目的

本研究は、日本語教育でのコンピュータの利用について、コンテンツと学習という関係、効果と評価の観点、実践という場から、以下の活動を行う。得られた知見をもとに、今後の新しい形態の日本語教育での指導とコンテンツについての示唆の提供を目的とする。

(1) 学習者の学習意欲をより一層かき立てるコンテンツの特徴は何か。

(2) 学習者の学習意欲の向上が日本語獲得という学習成果につながるのか。学習意欲と学習成果に何らかの影響を与える電子化コンテンツに共通項はあるのか。それは何か。

(3) コンピュータ利用が進む日本語教育において、今後、どのようなコンテンツとリソースが必要となるのか。どのような学習形態が望ましいのか。

3. 研究の方法

(1) 学習者及び教師の学習・教育・コンピュータ・コンピュータ学習に関するビリーフ(信念、価値観等)の把握、コンピュータ利用学習環境の確認、電子化コンテンツの確認、教育実践における実験試行のための準備、学習意欲・学習成果・指導・電子化コンテンツ分析因子の確定を行う。

(2) 実際に電子化コンテンツを利用して、コンピュータ利用日本語教育の実践調査を実施、学習意欲と学習成果の関係付け、電子化コンテンツの種類(ドリル型や訓練型等)と刺激要因(タイトル画面、導入部分、メニュー構造)や提示とガイダンス状況の整理、試行とフィードバック収集、全当事者の評価情報の収集と分類、結果の分析を行う。

(3) 電子化コンテンツの改変と再試行や比較、電子化コンテンツの再構築と試行による実践を行い、分析し、得られた知見と整理し、コンピュータ利用教育のあり方、並びに指導との関連での電子化コンテンツ作成におけ

る枠組み等の情報資料を提供する。また、使用した電子化コンテンツ(システムを含む)の提供準備も行う。

これらの実施に際して、多くの研究協力者と研究機関の助力を仰ぐ。

4. 研究成果

(1) CALL のポータルサイト「コンピュータで学ぶ日本語」の構築、動画を含む学修素材としてのコンテンツの充実と試行と提供のための整備を行った。

(2) 試行で収集した評価・フィードバック情報を分析し、共通化、一般化し、教師、学習者が学習成果を意識しながら学習を行うことができる項目(教師用と学習者用)にまとめた。具体的には、評価対象と評価者の選定をし、教育目標・内容について 100 点満点で 5 段階の判定により評価委員別の平均点による総合的評価を行い、学習者の反応分析と事後評価を行うものである。

(3) 得られた知見をまとめ、論文発表(韓国・日本語文学、広島大学・留学生教育)、口頭発表(日本語教育世界大会 2008・2009、韓国日本語文学会第 28・31 回学術大会、韓国日本語学連合会第 7 回学術大会、韓国日本語文化学会 2008 年秋季学術大会)、講演(NPO 日本語教育研究所、広島 YMCA、韓国日本語文化学会)を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

- ① 尹楨勳, 水町伊佐男, 日本語CALLにおけるポータルサイトの利用と評価, 日本語文学, 韓国日本語文学会(印刷中), 査読有, vol. 23, 2009,
- ② 尹楨勳, 安秉杰, 尹鎬淑, 水町伊佐男, 韓国における日本語CALL教材の学習内容に関する一考察, 広島大学留学生教育, 査読有, vol. 13, 2009, pp. 1-12

[学会発表](計 7 件)

- ① 水町伊佐男, 日本語CALLにおけるポータルサイトの利用と評価, 韓国日本語文学会第31回学術大会, 韓国, 2009年10月10日(土)
- ② 水町伊佐男, 日本語CALLにおけるポータルサイトの構築と利用, 豪州日本研究学

会・日本語教育国際研究大会2009, 豪州,
2009年7月14日

[図書] (計1件)

- ① 柳澤好昭, 高橋悦子, 定永裕子, コンピ
ュータ利用日本語教育の入門, 凡人社,
2008年

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称: なし
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称: なし
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

- ① コンピュータで学ぶ日本語
[http://www.geocities.co.jp/mizuma
t43/jcall/ab.html](http://www.geocities.co.jp/mizumata43/jcall/ab.html)
- ② Webサイト日本語教育の世界
<http://homepage3.nifty.com/nihongo/>
- ③ 発話発語練習システム
<http://www.manabi-net.jp/ptop/>
<http://www.manabi-net.jp/mng/client/>
<http://www.manabi-net.jp/sns/>
[http://www.manabi-net.jp/sns/?m=admin
&a=page_login](http://www.manabi-net.jp/sns/?m=admin&a=page_login)
- ④ テレ・コミュニケーション・システム
<http://kokken.j-tm.net/FCS.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柳澤 好昭 (YANAGISAWA YOSHIKI)

明海大学・外国語学部・教授
研究者番号: 80249911

(2) 研究分担者

水町 伊佐男 (MIZUMACHI ISAO)
広島大学・大学院教育学研究科・名誉教
授
研究者番号: 50056199
野山 広 (NOYAMA HIROSHI)
国立大学法人大学共同利用機構国立国語
研究所・日本語教育研究・情報センター・
上級研究員
研究者番号: 40392542
早田 美智子 (HAYATA MICHIKO)
国立大学法人大学共同利用機構国立国語
研究所・研究情報資料センター・研究員
研究者番号: 70311157

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号:

(4) 研究協力者

尹 楨勳
韓国順天第一大学・講師
安 秉杰
韓国南ソウル大学校・講師
尹 鎬淑
韓国サイバー外国語大学校・講師
桑原 陽子
福井大学・講師
福田 倫子
文教大学・講師
張 超
中国上海海事大学・講師
山中 恵美
米国ハーバード大学・講師
川崎 千枝見
広島国際学院大学・講師
Ping Li
米国国防総省外国語学院・講師
李 銀淑
(財) 千葉市国際交流協会・嘱託
才田 いずみ
東北大学大学院文学研究科・教授
チョ テヨン
韓国慶星大学・講師

